

1F	1,666.00m <sup>2</sup>
2F	129.50m <sup>2</sup>
延べ面積	1,795.50m <sup>2</sup>

大河原中学校屋内運動場耐力度調査及び将来計画策定業務

配置計画(案)まとめ

計画概要		メリット		デメリット	
計画場所	整備等の順序(案)	メリット	デメリット	メリット	デメリット
A案 旧給食センター跡地に整備	1) 新体育館を旧給食センター跡地に整備(Ⅰ期) 2) 既存体育館解体(Ⅱ期) 3) 新渡り廊下および駐車場を整備(Ⅲ期)	1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能 2) 校舎北側に配置するので、教室に新体育館の日照が影響しない 3) 既存体育館跡地は、まとまった広さの駐車場として利用可能 4) 他の配置計画案と比較して、体育館整備以外に比較的费用がかからない 5) 校舎の裏側に整備するため、授業時は騒音などによる負担が最も少ない 6) 新体育館とグラウンドの一体的な利用が可能	1) 校舎に隣接延焼が発生させない位置まで離れているので、大河原小学校敷地の一部が新体育館用地として必要(現配置計画より校舎側に寄せた場合は、校舎の一部建具を防火設備に改修が必要となり費用がかかるため、新体育館整備費用が減少する) 2) 新設体育館が大河原小学校プールボンプ室(地下タンクとも)の移設が必要 3) ④体育用具庫、⑤倉庫および油脂庫(地下タンクとも)の移設が必要 4) 工事車輛の出入りは、旧給食センター用通路を利用(工事車輛動線が生徒の動線および給食配送車動線と交錯する) 5) 敷地内水路の迂回工事が必要	1) 校舎に隣接延焼が発生させない位置まで離れているので、大河原小学校敷地の一部が新体育館用地として必要(現配置計画より校舎側に寄せた場合は、校舎の一部建具を防火設備に改修が必要となり費用がかかるため、新体育館整備費用が減少する) 2) 新設体育館が大河原小学校プールボンプ室(地下タンクとも)の移設が必要 3) ④体育用具庫、⑤倉庫および油脂庫(地下タンクとも)の移設が必要 4) 工事車輛の出入りは、旧給食センター用通路を利用(工事車輛動線が生徒の動線および給食配送車動線と交錯する) 5) 敷地内水路の迂回工事が必要	1) 校舎に隣接延焼が発生させない位置まで離れているので、大河原小学校敷地の一部が新体育館用地として必要(現配置計画より校舎側に寄せた場合は、校舎の一部建具を防火設備に改修が必要となり費用がかかるため、新体育館整備費用が減少する) 2) 新設体育館が大河原小学校プールボンプ室(地下タンクとも)の移設が必要 3) ④体育用具庫、⑤倉庫および油脂庫(地下タンクとも)の移設が必要 4) 工事車輛の出入りは、旧給食センター用通路を利用(工事車輛動線が生徒の動線および給食配送車動線と交錯する) 5) 敷地内水路の迂回工事が必要
B案 テニスコート敷地に整備	1) 部室棟を旧給食センター跡地に移設(Ⅰ期) 2) 新体育館をテニスコート用地に整備(Ⅰ期) 3) 新渡り廊下を整備(Ⅱ期) 4) 既存体育館解体(Ⅲ期) 5) 駐車場およびテニスコート整備(Ⅳ期)	1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能 2) 新体育館と校舎間の利用動線が最も短い	1) 配置計画案の中で一番校舎に近いので、授業時は騒音による負担が大きい 2) 管理室(職員室・校長室)から敷地正面の見通しが悪くなる 3) 新体育館の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) 既存体育館解体跡地にテニスコートを整備するまで、一部が使用できなくなる 5) テニスコートが分散し、授業および部活動等に支障がでる可能性がある 6) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側民家の負担が大きい 7) 配置計画各案の中で最も駐車場用地が少ない	1) 配置計画案の中で一番校舎に近いので、授業時は騒音による負担が大きい 2) 管理室(職員室・校長室)から敷地正面の見通しが悪くなる 3) 新体育館の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) 既存体育館解体跡地にテニスコートを整備するまで、一部が使用できなくなる 5) テニスコートが分散し、授業および部活動等に支障がでる可能性がある 6) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側民家の負担が大きい 7) 配置計画各案の中で最も駐車場用地が少ない	1) 配置計画案の中で一番校舎に近いので、授業時は騒音による負担が大きい 2) 管理室(職員室・校長室)から敷地正面の見通しが悪くなる 3) 新体育館の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) 既存体育館解体跡地にテニスコートを整備するまで、一部が使用できなくなる 5) テニスコートが分散し、授業および部活動等に支障がでる可能性がある 6) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側民家の負担が大きい 7) 配置計画各案の中で最も駐車場用地が少ない
C案 グラウンドを一部利用し整備	1) 新体育館を運動場用地の一部に整備(Ⅰ期) 2) 新渡り廊下を整備(Ⅰ期) 3) 既存体育館解体および駐車場整備(Ⅱ期)	1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能 2) 新体育館と校舎間の利用動線が比較的短い 3) 新体育館とグラウンドの一体的な利用が可能 4) 既存施設の配置に干渉されずに整備できる 5) 既存体育館跡地は、まとまった広さの駐車場として利用可能	1) 工事エリアが比較的校舎に近いので、授業時は騒音などによる負担が大きい 2) 運動場用地が狭くなる(約3000㎡)(200㎡トラックは設置可能) 3) 新体育館および新設渡り廊下の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) サッカーグラウンドおよびソフトボールの右翼側が確保できない	1) 工事エリアが比較的校舎に近いので、授業時は騒音などによる負担が大きい 2) 運動場用地が狭くなる(約3000㎡)(200㎡トラックは設置可能) 3) 新体育館および新設渡り廊下の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) サッカーグラウンドおよびソフトボールの右翼側が確保できない	1) 工事エリアが比較的校舎に近いので、授業時は騒音などによる負担が大きい 2) 運動場用地が狭くなる(約3000㎡)(200㎡トラックは設置可能) 3) 新体育館および新設渡り廊下の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある 4) サッカーグラウンドおよびソフトボールの右翼側が確保できない
D案 職員駐車場敷地に整備	1) 新体育館を運動場用地の一部に整備(Ⅰ期) 2) 新渡り廊下を整備(Ⅰ期) 3) 既存体育館解体および駐車場整備(Ⅱ期)	1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能 2) 既存施設の配置に干渉されずに整備できる 3) 既存体育館跡地は、まとまった広さの駐車場として利用可能 4) 管理教室棟から工事エリアが離れているため、 5) 授業時は騒音などによる学校の負担が最も少ない	1) 敷地南側および西側民家に圧迫感を与える 2) 新体育館と管理教室棟間の利用動線が一番長い 3) 整備が必要な新渡り廊下の面積が最も大きく、新体育館の整備費用が減少する 4) 新渡り廊下に掘り管理教室棟からグラウンドを視認しづらくなる 5) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側および西側民家の負担が大きい 6) 工事期間中は職員用駐車場が不足する可能性がある 7) プール用水道引込管の迂回工事が必要 8) ソフトボール用のフェンス等移設が必要 (新体育館とグラウンドの一体的な利用は困難)	1) 敷地南側および西側民家に圧迫感を与える 2) 新体育館と管理教室棟間の利用動線が一番長い 3) 整備が必要な新渡り廊下の面積が最も大きく、新体育館の整備費用が減少する 4) 新渡り廊下に掘り管理教室棟からグラウンドを視認しづらくなる 5) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側および西側民家の負担が大きい 6) 工事期間中は職員用駐車場が不足する可能性がある 7) プール用水道引込管の迂回工事が必要 8) ソフトボール用のフェンス等移設が必要 (新体育館とグラウンドの一体的な利用は困難)	1) 敷地南側および西側民家に圧迫感を与える 2) 新体育館と管理教室棟間の利用動線が一番長い 3) 整備が必要な新渡り廊下の面積が最も大きく、新体育館の整備費用が減少する 4) 新渡り廊下に掘り管理教室棟からグラウンドを視認しづらくなる 5) 騒音や工事車輛の通行などにより、敷地南側および西側民家の負担が大きい 6) 工事期間中は職員用駐車場が不足する可能性がある 7) プール用水道引込管の迂回工事が必要 8) ソフトボール用のフェンス等移設が必要 (新体育館とグラウンドの一体的な利用は困難)
E案 旧体育館跡地に整備	1) 運動場用地に仮設体育館を整備(Ⅰ期) 2) 既存体育館を解体(Ⅰ期) 3) 新体育館を既存体育館および旧給食センター跡地に整備(Ⅱ期) 4) 新渡り廊下を整備(Ⅱ期)	1) 校舎の裏側に整備するため、授業時は騒音などによる負担が最も少ない 2) 整備工事完了後は最も現状配置に近く、敷地内施設の移設および改修が最も少ない 3) 仮設体育館を第2体育館として使用することも可能 4) 校舎北側に配置するので、教室に新体育館の日照が影響しない	1) 仮設体育館を整備する必要があるため配管計画 2) 各案の中で体育館整備以外の費用が最も高く、新体育館の整備費用が大幅に減少する 3) 配置計画各案と比較して、駐車場用地が少ない 4) ④、⑤各倉庫および油脂庫(地下タンクとも・台帳記載なし)の移設が必要	1) 仮設体育館を整備する必要があるため配管計画 2) 各案の中で体育館整備以外の費用が最も高く、新体育館の整備費用が大幅に減少する 3) 配置計画各案と比較して、駐車場用地が少ない 4) ④、⑤各倉庫および油脂庫(地下タンクとも・台帳記載なし)の移設が必要	1) 仮設体育館を整備する必要があるため配管計画 2) 各案の中で体育館整備以外の費用が最も高く、新体育館の整備費用が大幅に減少する 3) 配置計画各案と比較して、駐車場用地が少ない 4) ④、⑤各倉庫および油脂庫(地下タンクとも・台帳記載なし)の移設が必要

※ ④、⑤は施設台帳の番号





記号	施設名称	構造階数	施設台帳面積(m <sup>2</sup> )
③	特別教室棟	W1	238
⑥	屋外体育所	W1	41
⑧	体育用具庫	S1	41
⑨	管理教室棟	RC4	6,692
⑩	免水槽	RC1	5
⑬	プール附属施設等	CB1	111
⑭	倉庫	W1	
⑮	柔剣道場	S1	411
⑯	倉庫	S1	41
	油庫	RC1	

03 計画の概要およびメリット・デメリット

【計画概要】

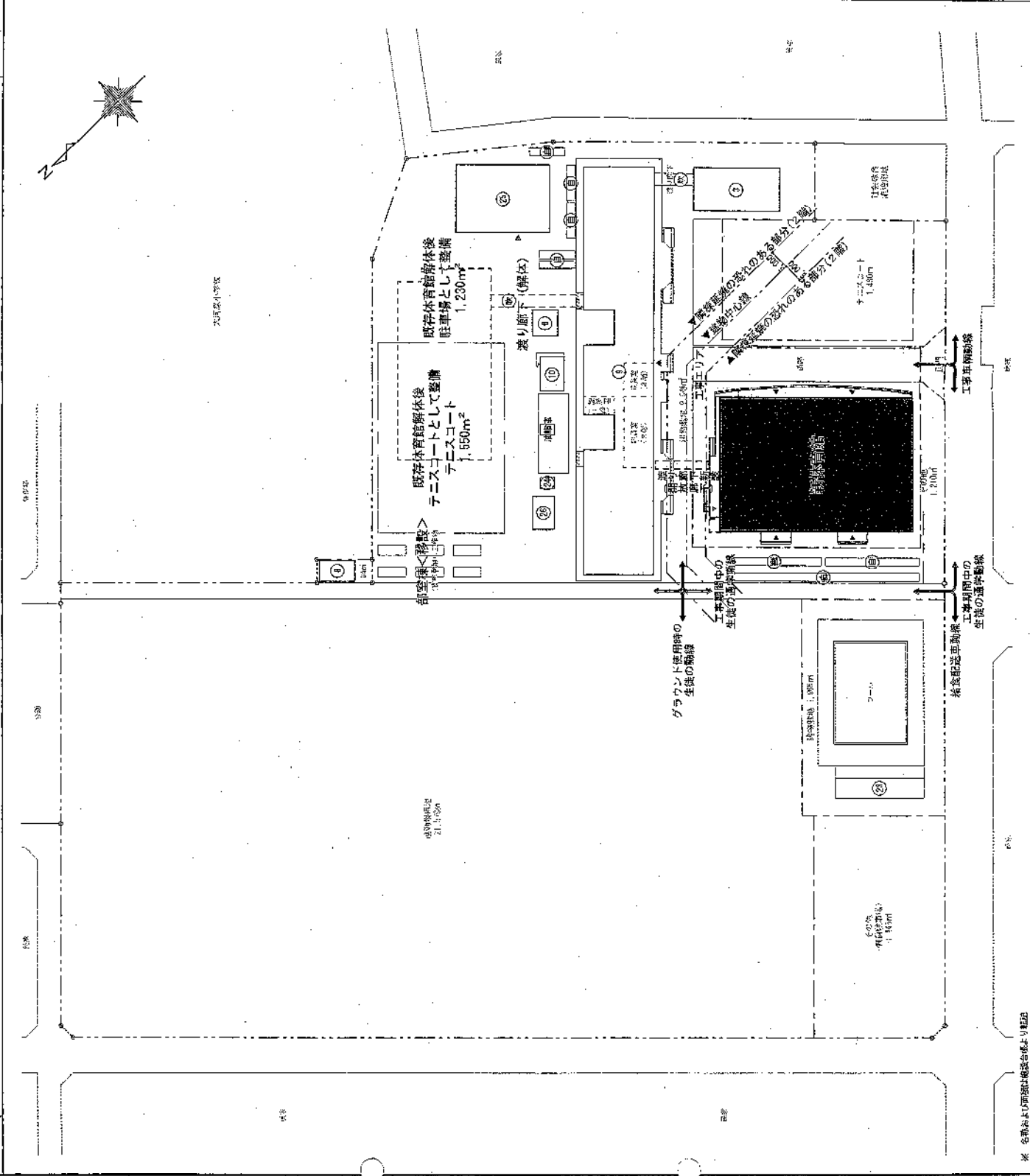
- 1) 部室棟を旧給食センター跡地に移設(Ⅰ期工事)
- 2) 新体育館をテニスコート用地に整備(Ⅰ期工事)
- 3) 渡り廊下(開放廊下)を整備(Ⅱ期工事)
- 4) 既存体育館解体(Ⅲ期工事)
- 5) 駐車場およびテニスコート整備(Ⅲ期工事)

<メリット>

- 1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能
- 2) 新体育館と校舎間の利用動線が最も短い

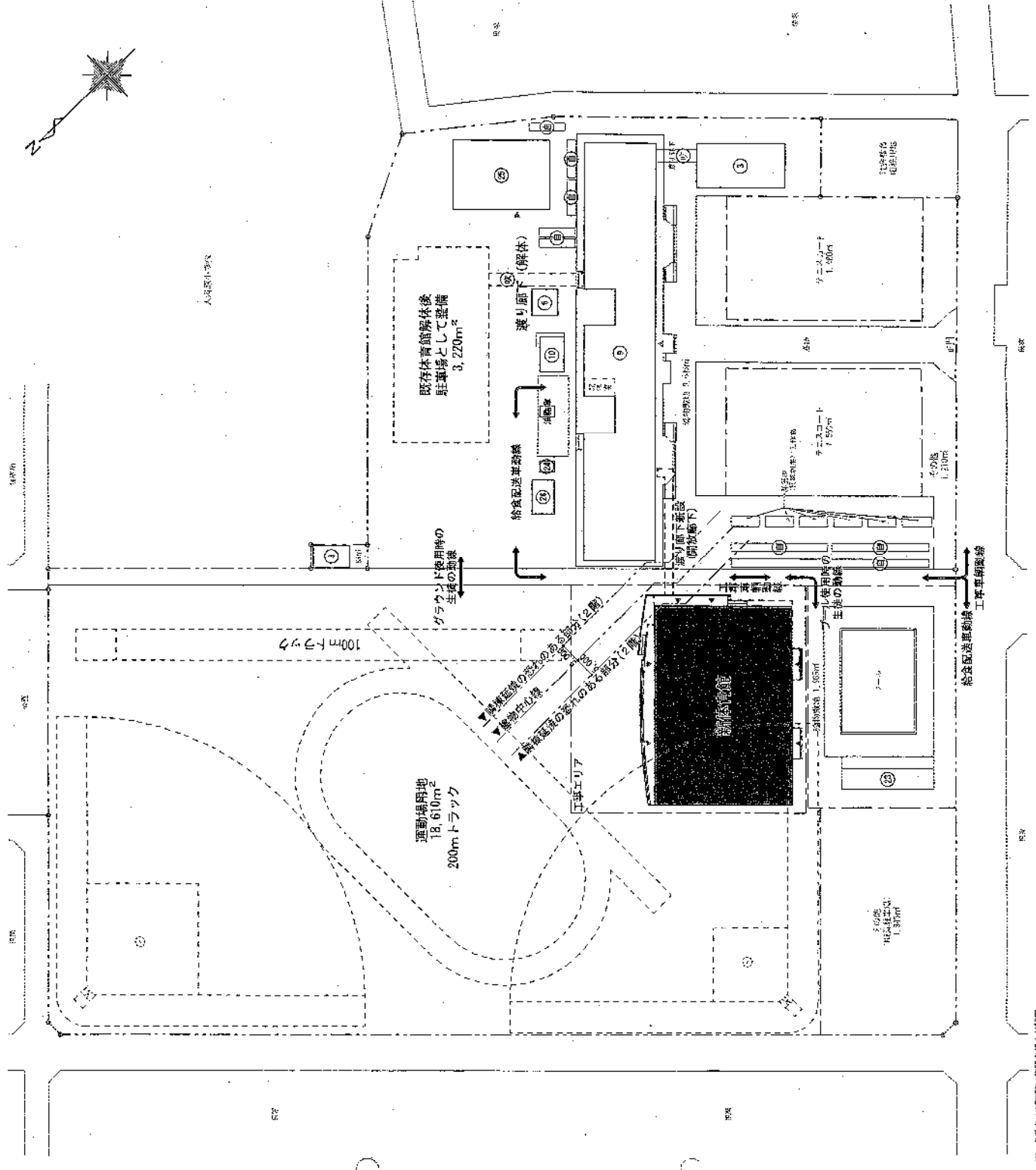
<デメリット>

- 1) 管理室(職員室・校長室)から敷地正面の見通しが悪くなる
- 2) 新体育館の日照により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある
- 3) 既存体育館解体跡地にテニスコートを整備するまで、一部が使用できなくなる
- 4) テニスコートが分散し、授業および部活動等に支障がでる可能性がある
- 5) 配置計画案の中で一番校舎に近いため、授業時は騒音による負担が大きい
- 6) 騒音や工事車両の通行などにより、敷地南側民家の負担が大きい
- 7) 配置計画各案の中で最も駐車場用地が少ない



\* 名称および西頭は仮称を基より記載

01 配置計画 (C案) <グラウンドを一部利用>



A3:1/1000

02 敷地内既存施設

記号	施設名称	構造階数	施設台帳面積 (㎡)
③	特別教室棟	W1	23
⑥	屋外便所	W1	4
⑧	体育用具庫	S1	4
⑨	管理教室棟	RC4	6.89
⑩	受水槽	RC1	5
⑬	プール附属施設等	CB1	11
⑭	倉庫	W1	
⑮	柔剣道場	S1	41
⑯	倉庫	S1	4
	油圧庫	RC1	

03 計画の概要およびメリット・デメリット

【計画概要】

- 1) 新体育館を運動場用地の一部に整備(Ⅰ期工事)
- 2) 渡り廊下(開放廊下)を整備(Ⅰ期工事)
- 3) 既存体育館解体および駐車場整備(Ⅱ期工事)

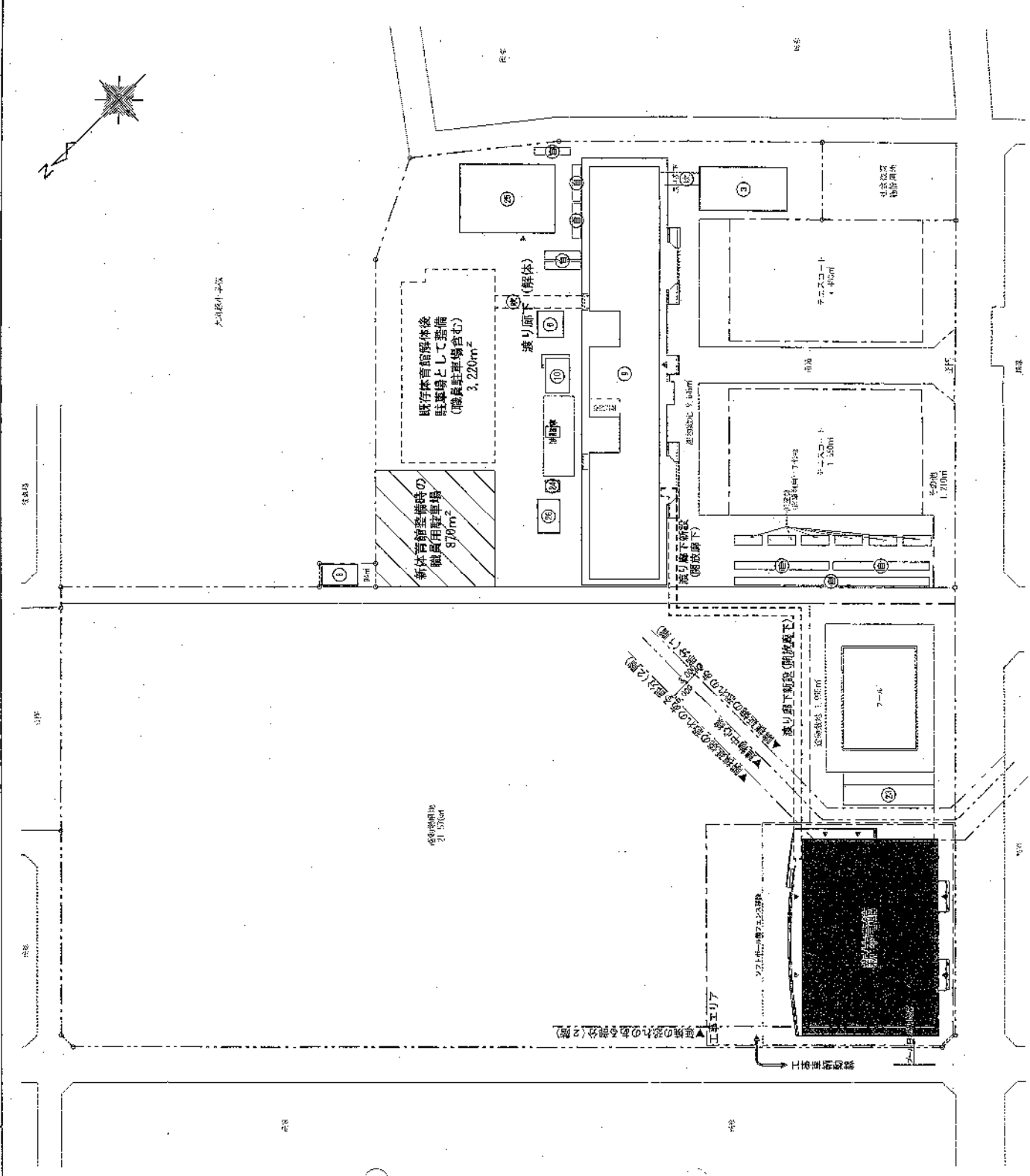
<メリット>

- 1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能
- 2) 新体育館と校舎間の利用動線が比較的短い
- 3) 新体育館とグラウンドの一体的な利用が可能
- 4) 既存施設の配置に干渉されずに整備できる
- 5) 既存体育館跡地は、まとまった広さの駐車場として利用可能

<デメリット>

- 1) 運動場用地が狭くなる(約3000m<sup>2</sup>)  
(200mトラックは設置可能)
- 2) 管理教室棟からグラウンドを視認できない
- 3) 新体育館および新設渡り廊下の日影により一部の教室は自然光が入りづらくなる可能性がある
- 4) 工事エリアが比較的校舎に近いため、授業時は騒音などによる負担が大きい
- 5) サッカーグラウンドの右翼側が確保できない

※ 各館および面積は施設台帳より転記



【計画概要】

- 1) 新体育館を運動場用地の一部に整備 (I期工事)
- 2) 渡り廊下 (開放廊下) を整備 (I期工事)
- 3) 既存体育館解体および駐車場整備 (II期工事)

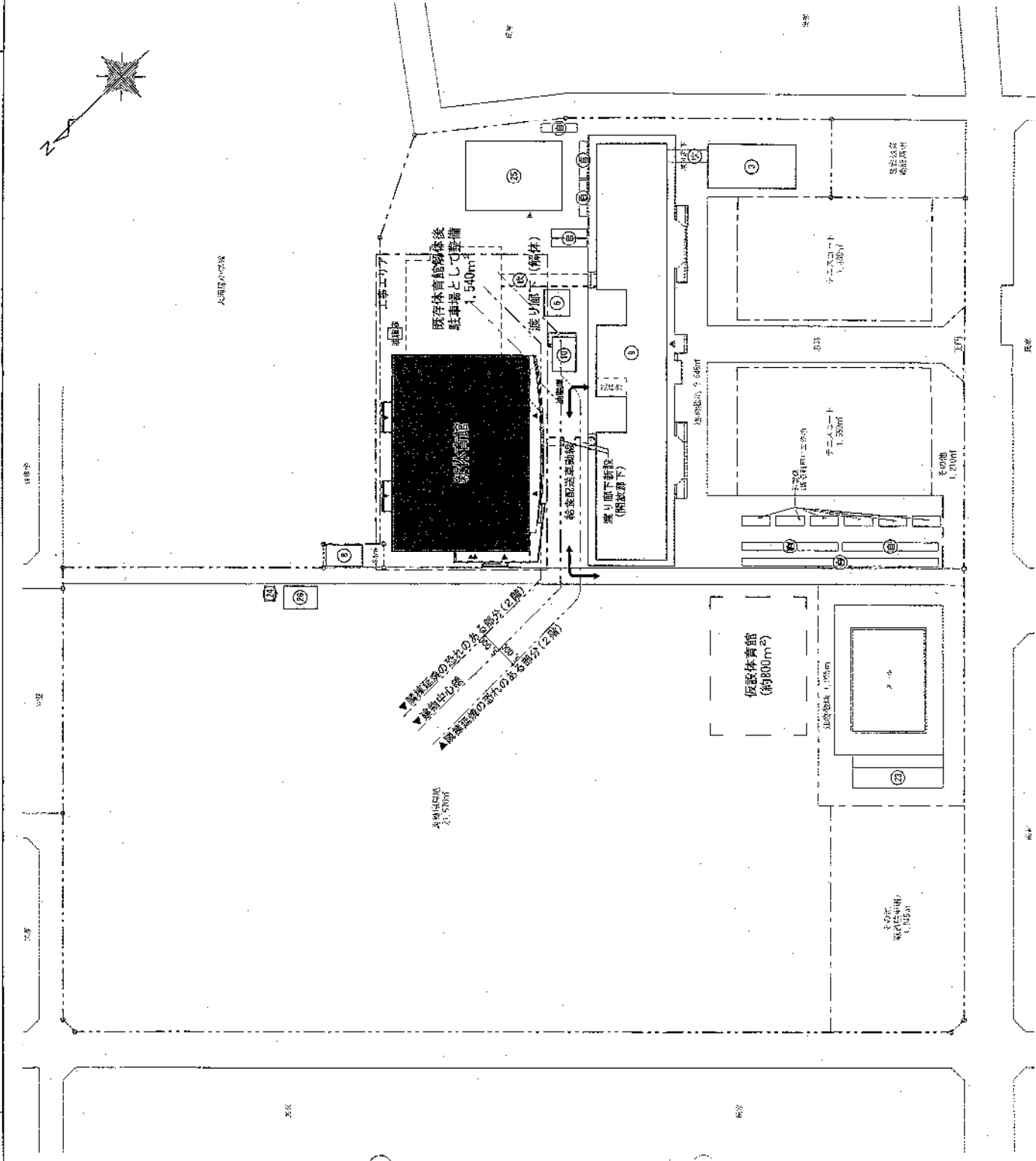
<メリット>

- 1) 既存体育館を利用しながら新体育館が整備可能
- 2) 既存施設の配置に干渉されずに整備できる
- 3) 既存体育館跡地は、まとまった広さの駐車場として利用可能
- 4) 管理教室棟から工事エリアが離れているため、授業時は騒音などによる学校の負担が最も少ない

<デメリット>

- 1) 新体育館と校舎間の利用動線が一番長い
- 2) 整備が必要な渡り廊下 (開放廊下) の面積が最も大きく、新体育館の整備費用が減少する
- 3) 渡り廊下 (開放廊下) に依り管理教室棟からグラウンドを視認しづらくなる
- 4) 敷地南側および西側民家に圧迫感を与える
- 5) 騒音や工事車両の通行などにより、敷地南側および西側民家の負担が大きいため
- 6) 工事期間中は職員用駐車場が不足する可能性がある
- 7) プール用水道引込管の迂回工事が必要
- 8) ソフトボール用のフェンス等移設が必要 (新体育館とグラウンドの一体的な利用は困難)

※ 名称および図は概略図であり詳細



記号	施設名称	構造階数	施設台帳面積 (㎡)
③	特別教室棟	W1	238
⑥	屋外便所	W1	43
⑧	体育用具庫	S1	49
⑨	管理教室棟	RC4	6,693
⑩	取水楼	RC1	54
⑳	プール附属施設等	CB1	110
㉑	倉庫	W1	9
㉒	柔剣道場	S1	41C
㉓	倉庫	S1	4E
	油階庫	RC1	

03 計画の概要およびメリット・デメリット

**【計画概要】**

- 1) 運動場用地に仮設体育館を整備(Ⅰ期工事)
- 2) 既存体育館を解体(Ⅰ期工事)
- 3) 新体育館を既存体育館および旧給食センター跡地に整備(Ⅱ期工事)
- 4) 渡り廊下(開放廊下)を整備(Ⅱ期工事)

**<メリット>**

- 1) 校舎北側に配置するので、教室に新体育館の日光が影響しない
- 2) 校舎の裏側に整備するため、授業時は騒音などによる負担が最も少ない
- 3) 整備工事完了後は最も現状配置に近く、敷地内施設の移設および改修が最も少ない

※ 仮設体育館を第2体育館として使用することも可能

**<デメリット>**

- 1) 仮設体育館を整備する必要があるため配置計画各案の中で体育館整備以外の費用が最も嵩み、新体育館の整備費用が大幅に減少する
- 2) 配置計画各案と比較して、駐車場用地が少ない
- 3) ㉑、㉒各倉庫および油階庫(地下タンクとも)：台帳記載なし)の移設が必要

※ 名簿表より内部に備置台帳より転記